

科学技術イノベーションを支える人材の育成について

2012年4月26日

青木玲子

次世代のために何ができるか？

新しいアイデアやビジネスは、若者からでてくる確率が非常に高く、科学技術イノベーションをふくめて、あらゆる分野で貢献してもらう必要がある。世界で活躍できる人材育成が必要である一方、日本に貢献してもらえ体制を整える必要がある。人材育成と活用へのための科学技術イノベーションの方策は？

① Learning by doing とか、見習いの機会を与える。若者の参加を科学イノベーションのあらゆる分野で促す。経験の浅い若者に仕事を任せるのは、生産性が低いとか、リスクが高いなどのコスト（機会費用）が伴うが、国が間接的に支援するよりも効率がよいのではないか？参加とは意見をいうだけでなく、行動する場をどのように確保するか？

② 世界で通用する人材（技術、知識、コミュニケーション、マネジメントなど）をどのように育成するか。国内で働く人材もグローバル人材である必要がある。

③ 政策の科学のインターンシップを議員の事務所でやることは可能か？科学技術政策の立案に貢献できる。

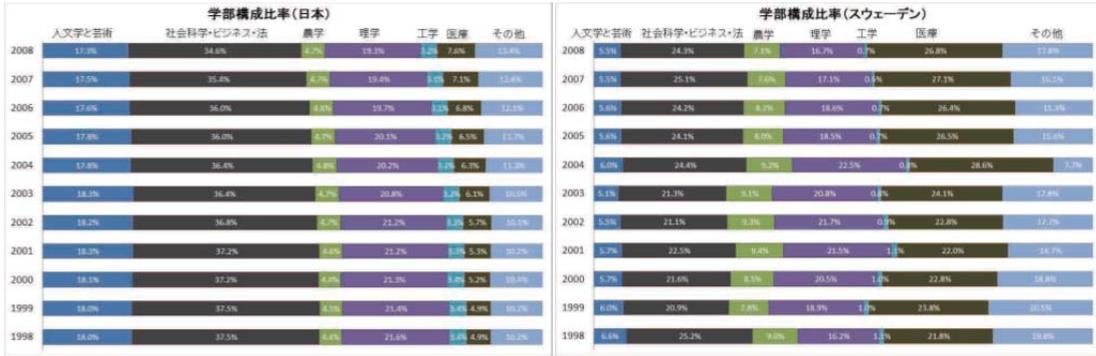
④ 日本の人材育成制度は需要に対応しできたか？どのような産学連携で何ができるか？産学連携が強いといわれているスウェーデンでは、学部構成が変化しているのがわかる（図2）。日本は極めて安定している。企業におけるインターンシップの他に、企業の提案の課題研究の奨学金などを促進する方法は？（奨学金に対して、税などの優遇処置はないか？）インターンシップを若い段階でやる方法はないか？

⑤ 大学評価をふくむ、評価（基準、方法）のグローバル化

- 大学のアウトプット（教育・研究の実績、施策の効果）の評価（インプットの確認は評価ではない）、大学のガバナンスは大学に任せる。
- 大学院・学部の目的、評価方法と資源配分の関係の明確化
- 時限付きの処置などの移行処置をふくむ（時限付きポストドク支援）
- 行政は評価と資源配分関係を担保

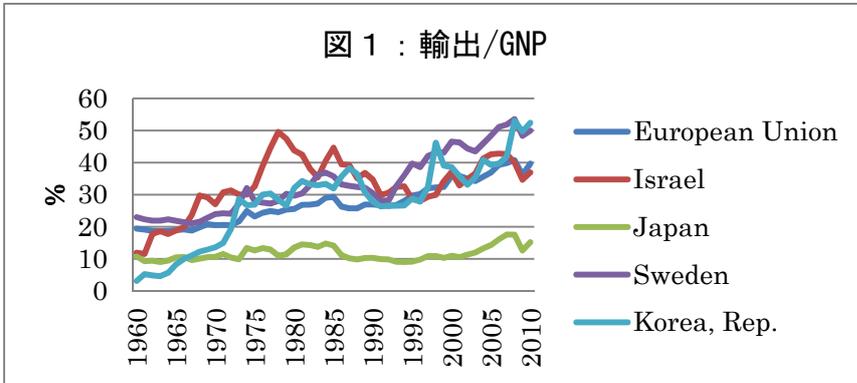
⑥ 目標をはっきりさせ、行程表の明確化とコミットメントが必要

図2：日本とスウェーデンの学部学生構成費



出所：新井・川口 「産業構造の変化と高等教育の役割」 N I R A 研究報告書「時代の流れを読む」第4章

さらなるグローバル化が必要



出所：World Bank Data

グローバル化しなければ、優秀な人材が流出するだけ

